

H25.12.14

インフルエンザワクチン



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。近著「平穏死・10の条件」「胃ろうという選択、しない選択」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。55歳。



「ウイルス」シリーズ①

師走に入ると医療機関には風邪の患者がたくさん訪れ、にわかに忙しくなります。そんななか、インフルエンザワクチンについて、さまざまに質問を受けます。「効くのか、効かないのか?」「昨年はワクチンを打ったけど、かかったよ」「副作用は大丈夫か?」「医療機関によって値段が違うのは、ワクチンが違うのか?」...どれも興味深い質問です。今回はこうした疑

接種はできるだけ年内に

問に簡潔にお答えします。まず、どれくらい効くのか。私は「3分の2程度」と答えています。ワクチンを接種してもかかってしまう人は毎年何人かいます。ワクチンを接種してから抗体の作られる方は人によってさまざまです。抗体が十分にできない人は、かかってしまうこともあ

ります。しかし重症化しない、早く治るといふ効果は期待できます。免疫能が低い子供や高齢者、肺気腫や糖尿病、がんなどの基礎疾患を持っている方も接種したほうが良いと思います。医療・介護関係者も接種したほうが良いでしょう。

気になるワクチンの副作用ですが、注射をした部位が赤く腫れることはよくあります。ほとんどの場合、冷やすと数日で腫れはひきますが、ものすごく腫れて困った経験が何度かあります。また、接種した後に熱や倦怠感が続き、文句を言われたことが何度もあります。良かれと思っ

てやっても結果が悪くなるのは医療につきもの。不可抗力です。ちなみにワクチン自体は医療にない部分があります。

自分がかかってしまうと、多くの患者にウイルスをまき散らすかもしれないからです。重症の在宅患者を介護している人も同様。自分自身のためというよりも、周囲のために接種したほうが良いと思える人はたくさんいます。

過去に一度でも調子が悪くなったという人や、自分の主義として絶対に接種しないという人には、お勧めしません。費用について高齢者は自治体の補助があり、統一されています。尼崎市は約3千円は市から補助が出ています。すなわちワクチンの接種費用は約4千円。一方、65歳未満の人は自由診療なので値段はさまざまです。私の知る限り1千円〜5千円とかなりの差があります。「統一価格にすればいいじゃないか」という声をよく聞きますが、医師会がそうすると独占禁止法違反になるので

ひよっぴ

「先生、どうして『打ちなさい』と言ってくれなかったの」。こうした恨み事を言われないためにも、すべての患者さんにひと声かけています。今冬もすでにインフルエンザ患者さんがちらほら出てきています。こうした点を留意のうえ、接種される方はできるだけ年内に済ませてください。ワクチンを接種してから抗体ができるまでは2〜3週間かかるからです。